令和４年度学校防災教育実践モデル地域研究事業の取組

内子町教育委員会

１　取組の目的

１　拠点校を中心とした教職員の防災教育力の向上を図るとともに、学校安全推進の中核となる教職員を位置付け、家庭や地域住民と連携した組織的な防災教育体制の構築を図る。
２　自他の命を守るため、児童・生徒が災害の危険を理解して自らの安全を確保する行動や日常の備えができるようにするとともに、学校や家庭、地域の安全活動に進んで参加し、貢献しようとする態度を育てる。
３　専門家の指導・助言を受け、学校防災・地域防災の実践的な知識・技能の習得と、危機管理マニュアルの整備を図る。

２　取組の内容

⑴　実践委員会

実施日：第１回　７月 12 日（火）
第２回　11 月９日（水）
第３回　12 月 20 日（火）
場　所：内子自治センター　多目的室
参加者：実践委員 16 名（小中学校・幼稚園教職員、愛媛県立内子高等学校長、愛媛大学防災情報研究センター准教授、南予教育事務所社会教育主事、地元自治会長、内子小学校ＰＴＡ会長、内子消防署副署長、大洲警察署内子交番長、地元消防団長、総務課危機管理班長、自治センター長、学校教育課長）

⑵　先進地視察研修

実施日：８月 25 日（木）
参加者：９名
実践委員会委員、内子小教職員
視察先：宇和島市吉田町
講　師：宇和島市役所　危機管理課、
学校教育課、教育総務課
内　容：現地研修
平成 30 年西日本豪雨災害での教訓を学ぶことを目的に、宇和島市内の学校を訪問した。被災当日、経験のない豪雨の中、学校が浸水していくまでの実際についてお話を伺った。想定を超える事態となり、被害状況確認や児童の安否確認が遅れたこと、備蓄品を保管している校舎の鍵が浸水のため開錠に時間を要した

ことなどをお聞きした。また、浸水により校舎が使用できなくなった中学校については、近隣の小学校に分散して教育活動を再開したこと、国や企業の支援を積極的に受け入れ、教育環境の復旧に取り組んだことなどを伺った。

⑶　地域安全マップ作り

実施日：９月 30 日（金）
場　所：内子小学校
参加者：内子小４年生、実践委員会
指　導：NPO 法人うちみづネット
参観者：防災アドバイザー　二神准教授、愛大生、県教育委員会指導主事
内　容：地域安全マップ作り

地域ごとの班に分かれて、安全マップ作りをした。家の周辺の白地図に自宅の位置や、川やため池などの危険個所を記した。その後、色付けされた白地図上にハザードマップを重ね、レッドゾーンを確認した上で透明フィルムに色付けする作業を行った。オリジナルの地域安全マップを作成することで、普段生活している地域にどのような危険が潜んでいるかということ、またどこに避難すればよいかということを知ることができた。

⑷　避難所訓練シミュレーション（クロスロード）

実施日：10 月７日（金）
場　所：内子小学校
参加者：内子小４年生、保護者（参観）
内　容：クロスロード

この日は全学年で防災教育をテーマとした授業参観を行った。児童自身が災害の危険を理解し、自らの安全を確保する行動がとれ、学校や家庭、地域の安全活動に進んで参加し貢献しようとする態度が育つよう、各学年、発達段階に応じた防災学習に取り組んだ。

４年生では避難所運営シミュレーションに取り組んだ。「避難所に犬を連れて行っていいか。」「お弁当が足りない場合どうするのがいいか。」など、それぞれの理由をグループで考えた。災害時の対応について、主体的に考えるきっかけとなった。また、保護者が参観することで、児童が学習した内容が各家庭でも共有でき、家族で防災意識を高める良い機会になった。

⑸　危機管理マニュアルの見直し

実施日：10 月 7 日（金）
場　所：内子小学校（マルチパーパス）
講　師：防災アドバイザー　二神准教授
参加者：内子小教職員、学校教育課長
内　容：　危機管理マニュアルの見直しを行った。警報発令時に、警戒レベルに応じて教職員配置を細かく計画することの大切さが分かった。また、学校だけでなく、家庭での防災カルテも作っておくとよいという助言もいただいた。

⑹　災害時避難学習

実施日：10 月 17 日（月）付箋
　　10 月 18 日（火）
場　所：内子自治センター
講　師：危機管理班　平野博之係長
参加者：内子小４年生
内　容：避難所体験、防災食試食
　避難所で使用する段ボールベッドを作成した。また、非常食を試食した。非常時に必要なものを実際に作ったり、体験したりすることで、具体的なイメージや知識を得ることができた。

⑺　体験型防災教育の実施

実施日：10 月 25 日（火）
講　師：内子消防署
場　所：内子小学校
参加者：内子小学校１年～６年
内　容：　起震車体験、煙体験を行った。実際に地震の揺れや煙を身体で感じることで、より危機迫る、現実味のある疑似体験ができた。地震が起きたときや煙の中での行動など、児童一人一人が自らの身を守るための具体的な行動を考えることで、防災の意識が高まり、より実践的な知識が身に付いた。

⑻　畑中自主防災会・内子小合同避難所運営
実施日：10 月 30（日）
場　所：内子小学校体育館
講　師：消防防災科学センター
　　楠本員三指導員

参加者：畑中自治会自主防災会、
内子小学校教職員
内　容：講義「避難所とは」
避難所運営ゲームＨＵＧ

　避難所について講話をいただいた後、避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）を行った。地域にいながらも普段はあまり顔を合わさない自主防災組織のメンバーと教職員が合同で研修に取り組むことで、非常時にも協働して避難所運営に向かおうとする機運が高まった。

⑼　教職員防災学習会

実施日：11 月 30 日（水）
場　所：内子小学校体育館
講　師：消防防災科学センター
楠本員三指導員
参加者：内子小学校全教職員、内子幼稚園、
小・中学校防災担当教職員、内子高等学校教職員、学校教育課
内　容：　学校における避難所運営学校での被災事例や、災害の事例などをご紹介いただいた。また、避難所運営について、日頃から地域と連携をとることや防災の協議を行っておくことの大切さなど、学校のとるべき対応などを学んだ。危機管理マニュアルの見直しにも役に立った。

⑽　小学校・高校合同防災レクリエーション

実施日：12 月 16 日（金）
場　所：内子小学校
講　師：熊本県レクリエーション協会
上野　祥子さん
参加者：内子小５年生
内子高校１・２年生
内　容：避難所における支援活動
　講師の上野さん御自身の体験や、避難所支援活動の様子についてＤＶＤ視聴を行った。避難所では、人と人とのコミュニケーションが何よりも大事であると強く訴えられていた。老若男女問わず、知らない者同士でも声を掛け合い、繋がることで、笑顔が増え、支え合いの輪が広がり、それが大きな支援となって避難所の雰囲気は大きく変わるとのことであった。その後、参加者は笑顔でレクリエーションに取り組み、和気あいあいとした雰囲気に包まれた。

⑾　避難訓練の実施

５月：緊急地震速報
６月：避難訓練（火災）
７月：シェイクアウト訓練
９月：シェイクアウト訓練
10 月：緊急地震速報
11 月：シェイクアウト訓練
12 月：シェイクアウト訓練・避難訓練（地震）

避難訓練は、ほぼ毎月実施している。地震や火災などを想定して訓練を繰り返したことで、さまざまな場面において自分の身を守るために速やかに判断し、行動する力が備わってきた。今後は保護者への引き渡し訓練についても充実させたい。

## 3　取組の成果

- 防災マニュアルの見直しにより、学校と地域の防災体制の見直しと再構築の必要性を確認することができた。
- 防災研修や避難訓練に取り組むことで、児童・生徒の命を守るための対策・対応について考え、備えることができた。
- 防災アドバイザーや実践委員からの指導・助言、また講演会・学習会を通して学校防災や避難所運営の心構えや実践的な知識が習得できた。
- 防災教育活動や、さまざまな想定による避難訓練を重ねることで、命を守るための主体的な行動力が身に付いた。

## 4　今後の課題

- 学校の中核となる教員を中心に学校間の連携を図り、成果を町内各学校全体へ普及していくことが大切である。
- 防災教育は、児童生徒から家族、さらに地域まで波及することが望ましい。各家庭への防災教育に対して、継続的な啓発活動を行う。
- 地域の自主防災組織と学校が共同で研修を行った。日頃から防災に対する備えについて、地域と学校がその役割を認識・確認しながら、効果的な活動を進めていく必要がある。
- 児童に対しては、防災教育の基本である自助「自分の命は自分で守る」ことを第一に、主体的に避難行動できることを目指して取組を進めた。今後も教員が不在の場合や家庭にいる場合など、いろいろな場面での行動力を身に付け、防災に関する知識を深めていく必要がある。